

## 詩篇119篇73～80節

- 73 あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があなたの仰せを学ぶようにしてください。
- 74 あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。
- 75 主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。
- 76 どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。
- 77 私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。あなたのみおしえが私の喜びだからです。
- 78 どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。
- 79 あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。
- 80 どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。

קָדִיךָ עָשׂוּנִי וַיְכַוְנֵנִי הַבִּינֵנִי וְאַלְמְדָה מִצֹּתִיךָ:  
 יִרְאֶיךָ יִרְאוּנִי וַיִּשְׂמְחוּ כִּי לְדַבְרֶךָ יִחְלְתִי:  
 יָדַעְתִּי יְהוָה כִּי־צָדִק מִשְׁפָּטֶיךָ וְאַמוּנָה עֲנִיָּתִנִי:  
 יְהִי־נָא חֶסֶדְךָ לְנַחֲמֵנִי כְּאַמְרֹתֶךָ לְעַבְדְּךָ:  
 יְבֹאוּנִי רַחֲמֶיךָ וְאַחֲיָהּ כִּי־תוֹרַתֶךָ שְׁעֵשְׂעֵי:  
 יִבְשׂוּ זַדִּים כִּי־שָׁקַר עֲוֹתוֹנִי אֲנִי אֲשִׁים בְּכַף־קוֹדְיֶךָ:  
 יָשׁוּבוּ לִי יִרְאֶיךָ וַיִּדְעוּ עַד־תִּיךָ:  
 יְהִי־לִבִּי תָמִים בְּחַקֶּיךָ לְמַעַן לֹא אֶבּוֹשׁ:

第十字「ヨード」。この「点」のような文字はヘブル語アルファベットの中で最も小さく、主イエスが「律法の一点一画も」と言われた「点」に当たります。子音の「y」に相当し、やさしく発音します。例として、「יִשְׂרָאֵל」（イスラエル）の冒頭でも使われている文字です。

ק / ヤード……手、力、部分

יִרְא / ヤーレー……恐れ、畏敬、恐怖

יָדַע / ヤーダー……知る、知るために学ぶ、理解する、識別する

יְהִי (הִיָּה) / イェヒー（ハーヤー）……成る、存在する、起こる、落ちる

יְבֹאוּנִי (בּוֹא) / イヴオーウーニー（ボー） / 入って行く、入る、行く、来る

יִבְשׂוּ (בוֹשׁ) / イェーヴオーシュー（ブーシュ）……恥ずかしいと感じる、恥じる、狼狽する

יָשׁוּבוּ (שׁוּב) / ヤーシューヴー（シューヴ）……立ち返る、帰る

この箇所全体に流れているテーマは、詩人が直面している苦しみの背後には神の目的があったのだと彼が悟ったということです。75節の中で「**あなたが真実をもって私を悩まされた**」と言われてるように、神の正しい御心によって、そのゆるしの下で何事かが行なわれた。彼が何によって苦しんでいたかという、「**あなたを恐れる人々と、あなたのだしを知る者たちが、私のところに帰りますように**」(79節)という願いから分かるように、何らかの誤解によって信仰の友が離れて行ってしまったということでしょう。「**どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです**」(78節)とされているところから、彼についての真実を曲げて伝える者がいたようです。

私たちの人生においても、子どもの世界であっても、ありもしない噂が立つことがあります。言葉の一部が切り取られて拡散されたり、言ってもいないことがまことしやかに伝わっていくこともあります。被害者となることもあれば、加害者となっていることもある。真実を確認しないで、聞いた噂話を更に広めるならば、一緒になって悪を行なっていることになるでしょう。言葉の扱いは、いつの時代にも注意深くなくてはなりません。メディアが伝えていることに偏向報道がないかどうか、疑ってかかる必要があります。

詩人がそのような状況下にあってどう考え、どう行動したかを探ってみましょう。

**あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があなたの仰せを学ぶようにしてください。**(73節)

彼が第一にしたことは、自分という存在を形づくってくださった主に依り頼んだということです。

「形づくる」とは「確立させる」こと。肉体的な骨組みだけのことが言われているのではなく、彼の心の中心に信仰の礎を据えることも含まれています。本篇的に言うならば、「神のことば」が彼の人生の中核に置かれたのです。彼は、人間の言葉の多くが歪んでいることを知りましたが、神のことばは真っ直ぐであることを思い出したのです。

**あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。**

(74節)

詩人が主に祈り主の答えを待ち望んでいる姿は、彼について言われている悪しき噂が真実ではないということ、一部の人々に理解させたと思われます。これは、真実を見極める嗅覚とも言えるかもしれませんが、主を畏れる心を持つ人には嗅ぎ分けられることがあるのです。

**私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。**(77節)

「**生かしてください**」という言葉は、詩人が瀕死の状態に陥っていたことを暗示します。苦しくて苦しくて、もはや命を絶ってしまいたい心境にさえ駆られたのでしょう。彼を思い止まらせたものは、主の「**あわれみ**」でした。主がインマヌエルとして共におられるということ、すべての真実をご存知であられる方が傍にいてくださるということでした。

**どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。**(80節)

詩人は、自分の心が主の「法」の下で正しくあることを願いました。外面的な行ないだけでなく、偽りなき心で主に従おうとしたのです。主は真っ直ぐな者の道は真っ直ぐに、曲がった者の道は捻じ曲げる方だからです(Ⅱサムエル 22:27、詩篇 18:26)。私たちは曲がった事柄に対して曲がったものでもって返す必要はなく、あくまで真っ直ぐであり続けることこそが勝利への道なのです。